

# CMA+PBダブル資格者に聞く、 プライベートバンカー資格

超高齢化社会に突入した日本では、相続や事業承継といった課題に直面する富裕層・企業オーナーも多く、このような課題に取り組むプライベートバンカーの存在は、近年欠かせないものとなっています。

特に事業承継の課題への支援は、税務・法務よりも、証券アナリストの知識や感覚が最も生きる分野と言えるでしょう。事業全体の流れをつかみ、その分析やビジョンの立て方、差別化の方法、上場企業の財務諸表からリスクを読み取る識別眼、アナリストレポートで駆使される会社の意図を投資家に伝えるための表現方法など、証券アナリスト的観点や経験が、企業オーナーへのコンサルティングには欠かせません。

CMAでありかつPB資格を取得された会員の皆様にご登場頂き、受験の経緯やダブル資格の活用、また受験した感想等について、お話を伺います。

## 1. 受験のきっかけ

### ベンチャーキャピタル時代、起業家に魅せられ自分も独立

大学を卒業して入社した証券会社では、個人営業、営業企画、法人企画、国際企画等の業務を担当後、念願のニューヨークに赴任、CMA資格を取得しました。その後、シアトルでベンチャーキャピタルの世界を経験、そこで出会った起業家たちに魅せられ、自分もいつかは会社を起こそうと心に決めました。

帰国後はウェルスマネジメント部門で5年間、企業オーナーを中心とする富裕層向けソリューション提案業務に従事。資産運用、相続・事業承継、不動産、M&A等、PB業務を行っていました。現在は、独立系IFA (Independent Financial Adviser) として、PB関連事業（金融商品仲介業、生損保代理店、FP相談業務）を運営しております。

自分自身も経営者であることから、企業オーナーには同じ目線で話ができることが、自分の強みです。これは、運用経験のない人では運用について真実を語るのが難しいのと、同様かと思います。

### 経験豊富な大先輩でも自己啓発する姿に、受験を決意

協会主催のPBセミナーに参加した際、同じグループだったプライベートバンカー資格者の方と親しくなりました。その方は自分よりもずっとキャリアも長く、富裕層ビジネスでの経験も豊富で何にでも詳しい方なのに、更に貪欲に学ぼうとしている意識の高さに感銘を受けました。

その方の姿勢に触発され、プライベートバンカー資格取得にトライ。CMA資格者なのではじめからシニアPBの受験資格はありましたが、まずはプライマリーPBから受験し、3単位とも一発合格、2015年9月に資格者となりました。続けてシニアPBも同じ9月に受験、コンピュータ試験3単位とも一発合格して、10月の筆記試験にチャレンジし、こちらも一度目で合格。今年2月にシニアPBに認定されました。



株式会社ダブルチェック  
代表者 窪田清之 氏

---

## 2. シニアPBを受験して

### 筆記試験のクリアは、知識だけではなく実務能力の証で価値が高い

普段から顧客サイドに立った顧客のグランドプランを書いていたので、筆記試験で課される投資政策書の作成は違和感なく着手できました。ただ、具体的にどう作成したら良いかという技術的な面は、2日間PBセミナーで学んだことが役に立ちました。セミナーでは顧客ニーズのヒアリング・現状分析・課題抽出・提案書作成・顧客提案という一連の流れを体得することができます。

筆記試験を受験して一番驚いたのは、採点結果とともに、採点委員からのフィードバック（提案に対するコメント）が施されていたことです<sup>(※注)</sup>。今まで様々な試験を受験してきましたが、このようなことははじめてで、関係者の熱意のようなものが伝わってきました。

(※注) 採点委員の個別フィードバックは、ある一定以上の点数の受験者に対して行っています。(協会)

CFPやCMA等の金融関連資格は、学科試験だけで取得できるのに対し、シニアPBは、投資政策書作成という極めて実務的な筆記試験があるので、実際の実務的な分析力、提案力がないと合格できない資格であり、そこで認められたことは非常に高い価値があると感じています。

## 3. CMAでありPB資格者である強み

### 資格は自らを映す鏡

証券会社時代、海外で仕事をしたいという希望をかなえるためには、それに向かって自分が具体的な努力をしていることを会社側に示す必要があると考え、Series 7という米国の証券外務員資格を取得しました。その姿勢が認められたのか、国際企画を経てニューヨーク支店に異動となりました。

その頃から、資格は自分自身を映す重要な要素であるという認識を持っています。自分が目指すキャリアがあれば、それに相応しい資格を取得するべきだと考えています。また、自分のスキルを的確に表現できる資格を取得してアピールすることも大切です。

シニアPBは最もステータスの高い資格だと感じています。現時点でわずか45名しか認定されていない資格であると話す、顧客からの反応はまるで違います。独立系PBとして活躍する上で、シニアPB資格は確実に差別化に役立っています。

知名度はまだこれからという資格ではありますが、資格者である自分たち自身の今後の活躍が、PB資格の品質を左右することになると考えて、この資格に恥じぬよう、クオリティの高いPBビジネスを展開していきたいと思っています。